
本日、無常なり

アケザキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本日、無常なり

【Nコード】

N89570

【作者名】

アケザキ

【あらすじ】

オリジナル小説、短編集。（物置き集？）

時々、詩も入ります。

アケザキ・ワールドへようこそ。

どなたでも、感想を書ける様にしてあります。

初めに。

こんにちは。アケザキです。

今回の小説は、ちょっとした短編集として書いて行こうかなと思っています。

初のオリジナル小説です。

私は元々、別の小説を書いているのですが、他に小説のアイデアが思いついたので、短編集として載せて行きます。(他には詩とかも入れると思います。)

もしかしたら、この中から連載小説にする事もあるんじゃないかと思います。その時はまた、何かしようと思っています。

更新につきましてはかなり遅いと思います。

ご了承くださいませ。

初めに。(後書き)

かなり遅い更新は遅いと思いますが、よろしくお願ひします。

詩：本日は“真”に晴天なり（前書き）

この物置き集、初投稿作品になる詩です。

色々と恥ずかしいところもありますが、自分の感覚を大事にして創りあげました。

それでは、どうぞ

詩：本日は“真”に晴天なり

今日も私は空を見る。

今日も私は空を見上げる。

見ている空には何も無い。

見ている空はただ蒼い色が染まっているだけ。

何処までも、ただ何処までも、

蒼い色が広がっているだけ。

透き通った蒼い色が一面に広がっているだけ。

ただただ蒼い色が広がっているだけなのに、

私の目が、躯が、心が、魂が、

その蒼に溶けていく。

ああ全ての人々が、この感覚を忘れてしまっているのだろうか……

今日も私は空を見上げる。

……本日は晴天なり。

詩：本日は“真”に晴天なり（後書き）

いかがでしたか？

凄く拙い文章ですみませんでした・・・。

これ掲載している時は既に、試験勉強真っ只中で頑張っている頃・・・。

ご感想お待ちしております。

ありがとうございました。

2010年、11月21日。

短編話・ある少女の朝（前書き）

よくある日常のひとつまを切り取ってみました。

グダグダクオリティーですが、どうぞ。

短編話：ある少女の朝

チュンチュン……………。

あるマンションの一室の、平日の朝6時頃の事。

？「美雪ー！朝よ！起きなさい！！」

少女、美雪の一日は此処から始まる。

~~~~~

美「ふあ~~~~つ。お母さん、おはよー…そしておやすみ…  
…。」

母「こらー！二度寝しないでさっさと起きなさい！」

美「……………けちい~~~~……………」

ゆつくりと掛け布団から出る美雪（14歳）。

母「今日は部活の朝練あるんですよ。行かなくていいの？」

美「……………いつけね、忘れてた。」

美雪は吹奏楽部に所属している。今日は部活の朝練がある日なのだ。その事を母親に言われるまで忘れてた美雪。

母「朝ごはん出来ているから、顔洗ってきなさい。」

美「ふあーい。」

- 洗面所 -

バシャバシャ・・・バシャバシャ・・・

美「（ハアア。さっぱりした。）」

バタンツ！！

父「美雪！おはよう！！朝だよ朝だよ！！」

美雪の父親、洗面所のドアが開くと共にハイテンションで登場。

美「朝っぱらからうるせえよ。」

父「え？何が何が？」

足をドタドタと鳴らしながらハイテンションで美雪に近づく父。

美「あーもーっ！！朝っぱらからその『ドタドタ』止めてくんない！？うっとうしいし、下の部屋の人達に迷惑でしょ！！」

美雪は父親に半ばキレながら注意するが、当の父親は。

父「えーっ！？美雪はお父さんの事嫌い？嫌い？嫌い？」

と、しつこく言ってくる。

思春期に入り反抗期を迎えた娘にとって、このしつこさはストレス



母「気にするあんたもあんたよ。あーゆーのは気にしない方がいいから。かまって欲しくてやってる事から。」

お母さんはそう言うが、美雪は。

美「ヤダ。あの親父マジ最悪。うっとうしいすぎ。」

と、まだ愚痴っていた。

ちなみに、このやり取りは朝練があるたびに起こっているため、最早日常風景の一つとなってしまうている。

母「さ、気持ち切り替えて朝ごはん食べなさい。」

美「・・・はい。いただきます。」

そして美雪は朝ごはんを食べはじめた。

- 美雪の部屋 -

朝ごはんを食べ終えた美雪は歯磨きをしたあと、自分の部屋で制服に着替える。

コンコン。

母「美雪。ちょっといいかしら。」

美「何？お母さん。」

母「はい、部活で使うタオル。忘れてたでしょ？」

母は美雪にハンドタオルを渡す。

美「あ、ありがとう。（危うく忘れるところだった……。）」

美雪は母親からハンドタオルを受け取り、鞆の中に入れる。

美「じゃあお母さん、行ってきます。」

母「行ってらっしゃい。気をつけて行くのよ。」

美「わかってるって。」

美雪は鞆を持ち、部屋を出た。

- 玄関 -

美雪は靴を履き、ドアノブに手をかける。

美「いってきまーす。」

父「はい。気をつけて行くんだよ。」

美「わかってるからー。」

ボタン。

そして美雪は外に出た。

- 外廊下 -

美「うわぁ・・・!!今日は凄い綺麗に晴れたなぁ・・・!!」

美雪は空を眺めた。

美「（今日は何かいいことありそう・・・!!）」

美雪はそう思いつつ、学校に登校していった・・・。

終わり



短編話：ある少女の朝（後書き）

以上です。

この美雪の話は、ほぼ私の実体験が元になっております。（私は中学生のときに、吹奏楽部に所属していました。）

思春期ということもあり、お父さんは成長していく娘にかまって欲しくて、朝からこうしているんだと思いますよ。

・・・・・・・・多分。

（美雪の父親ほどでは無いですが、私の父親もかまって欲しさでこう接して来ます・・・・・・・・。良いところも在るんですけどね・・・・・・・・。）

そんな日常のひとコマを、最後まで読んでくださった皆様、ありがとうございました！！

2010年12月17日。

寒い外の暖かな空の色と共に。

詩…「……夢よ。」（前書き）

「……私は今日も夢をみる。」

詩…「…夢よ。」

夢うつし。

夢うつし。

夢の夢のそのまた夢よ。

…私は何処に立っている？

…私は大地に立っている。

夢うつし。

夢うつし。

夢の夢のそのまた夢に、

…私は大地に立っている。

…地に足をつけ立っている。

夢うつし。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢よ、

・・・私は何故立っている？

・・・何故私は此処にいる？

夢うつしつ。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢よ、

・・・何故私は此処にいる？

・・・此処で何をすればいい？

夢うつしつ。

夢うつしつ。

夢の夢のそのまた夢は、

・・・私に何も答えない。

・・・私に何も語らない。

夢うつつ。

夢うつつ。

夢の夢のそのまた夢で、

・・・私は悟る。

・・・いや、悟ってしまった。

地に足をつけ立つ事は、

何があっても生きるといふこと・・・。

つらい事があっても、

くるしい事があっても、

・・・夢（此処）で地に足をつけ立っている限り、

生きていかなければいけないということ・・・。。。

そして私は今日もまた、

目を醒まし、生きていく。

詩：「……夢よ。」（後書き）

寒い日が続きますね……。

ども、アケザキです。

こちらの「本日、無情」では、久々の投稿となります。

いやぁ……本当に寒い日が続くと辛いです……（特に、学校に行くときとか）。

さて、今回の詩「……夢よ。」いかがだったでしょうか？

一応、今回のテーマは「自分の命とは何か？」にしているんですよ。

「命」って何かこう……何処か儚くて、大切なものとみんな知っている。なのに見落としがちだと思っんですよ。

ましては「自分の命」とは何か？……今回の詩はこれを伝えたいんです。

この詩を読んで、もう一度「自分の命とは何か」を考えていただけたら幸いです。

けれどまだまだ拙い文章能力なので、伝わりづらかったら本当にごめんなさい……。

2011年1月22日。

凍てつく様な寒さと昼を暖かく照らす太陽、  
そして夜を静かに見守  
る月と共に。



詩：「エゴイズム」（前書き）

前回投稿した「・・・夢よ」の別バージョンです。

作りは一緒ですが、テーマにしているものは違います。

どしどし。

詩：「エゴイズム」

エゴイズム。

エゴイズム。

人は何かしらのエゴイズムを持っている。

私も持っている。

エゴイズム。

エゴイズム。

人はエゴイズムを持ち、それをふるう。

私もふるう。

エゴイズム。

エゴイズム。

エゴイズムは人を縛る。

自分を他人を世界中を。

エゴイズム。

エゴイズム。

エゴはみんなを巻き込んで、何処へ向かおうとしているのか・・・。

エゴイズム。

エゴイズム。

何でみんなは争うの・・・？

何でみんなはいがみ合うの・・・？

ドウシテワカリアエナイノ・・・？

エゴイズム。

エゴイズム。

今日も人はエゴで動く。

私もエゴで動いてく。

- - - 世界中が動いていく。

みんな・・・みんな・・・みんな。

詩：「エゴイズム」（後書き）

アケザキです。

今回は『エゴイズム』というタイトルで投稿させていただきました。

テーマは「エゴとエゴ」。

観点は「自分から見たエゴとの関係」です。

「・・・夢よ。」の別バージョンというコンセプトで書きました。

ただし、伝えたい事は違います。

「・・・夢よ。」では“命”をテーマにしましたが、この『エゴイズム』は“エゴ”とはなんだろうという思いから書いた作品です。

その違いを感じながら読んでいただけると幸いです。

2011年2月11日。

漆黒の夜に舞う白雪と共に。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8957o/>

---

本日、無常なり

2011年10月8日04時39分発行